

2022年6月12日 日本人口学会第74回大会@神戸大学
企画セッション「セクシュアリティ人口学の現在とこれから」

『セクシュアリティの人口学』から、 SOGIと社会的属性

釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）
岩本健良（金沢大学）

- 本報告内容は『セクシュアリティの人口学』小島宏・和田光平編著、原書房の第6章「SOGIと人口学的属性」として掲載予定である
- この研究は、平成28年度～令和2年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（一般・基盤研究（B））「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築（研究代表者：釜野さおり）」（課題番号16H03709）の助成を受けたものである

第6章 SOGIと人口学的属性 (構成-1)

はじめに

第1節 性的指向と性自認のあり方：用語と指標

- (1) 性的指向
- (2) 出生時の性別と性自認のあり方

第2節 SOGIの指標と調査での捉え方の先行研究

- (1) 性的指向に関する先行研究
 - 1) 性的指向の複数の指標と調査での捉え方
 - 2) 先行研究における性的指向の分布
- (2) 性自認のあり方に関する先行研究
 - 1) 性自認のあり方の測定
 - 2) 性自認のあり方別の性的指向の研究

第6章 SOGIと人口学的属性 (構成-2)

第3節 日本のデータからみたSOGIと人口学的属性

- (1) 欠落している人口学的データを得る
- (2) シスジェンダーの性的指向と人口学的属性の分析
 - 1) 性的指向のアイデンティティと人口学的属性
 - 2) 恋愛惹かれ、性的惹かれ、性関係の相手の性別による分類と人口学的属性
 - 3) 恋愛惹かれ、性的惹かれ、性関係の相手の性別の複合指標と人口学的属性
 - 4) 性的指向アイデンティティの「規定要因」の分析：多変量解析の試み
- (3) 性自認のあり方に関する分析
 - 1) 性自認のあり方と人口学的属性
 - 2) トランスジェンダーの人々の性的指向

第4節 まとめと今後の課題

本章の「目玉」

1. 従来と違うデータ
日本で実施した無作為抽出調査
2. 性的指向の指標
複数の指標を用いている
3. 性的指向と人口学的属性の分析
多変量解析の試み
4. トランスジェンダーの人口学的分析
人口学的属性と性的指向分布の提示

1 データ：osaka-chosa.jp 参照

- 大阪市民調査

- 「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」
- 大阪市の協力を得て、科研で実施
- 無作為抽出（2018年10月1日時点の大阪市の住民基本台帳）
- 18歳～59歳の15,000人
- 2019年1月実施
- 郵送法（回収はウェブ併用）
- 有効回収数（率）4,285人（28.6 %）
 - 1,754人（23.2 %）、女性2,517人（33.9%）

2 性的指向：複数の指標を用いた

・アイデンティティ

- ・自分はバイセクシュアルである
- ・自分は同性愛者であるなど、本人の認識

異性愛者
ゲイ・レズビアン・同性愛者
バイセクシュアル・両性愛者
アセクシュアル・無性愛者
決めたくない・決めていない
質問の意味がわからない

- ・恋愛的に惹かれる相手
- ・性的に惹かれる相手
- ・性関係の相手

経験なし（ワーディングはそれぞれ異なる）
男性のみ
ほとんど男性
男性と女性同じくらい
ほとんど女性
女性のみ

これまでのこと

分析では、複合指標を生成

シス男性とシス女性の性的指向の分布

(シス男性)	異性愛者	ゲイ・レズビアン・ 同性愛者	バイセクシュアル・ 両性愛者	アセクシュアル・ 無性愛者	決めたくない・ 決めていない	質問の意味が わからない	無回答
アイデンティティ	85.0%	1.3%	1.0%	0.2%	3.1%	8.6%	0.9%
	異性のみ	同性のみ ほとんど同性	同性異性同じくらい ほとんど異性	どちらもなし	—	—	無回答
恋愛惹かれ	92.3%	1.6%	3.1%	1.9%	—	—	1.1%
性的惹かれ	92.7%	1.7%	3.0%	1.4%	—	—	1.2%
性関係	90.0%	1.6%	1.1%	6.2%	—	—	1.1%
複合指標	86.3%	1.8%	4.3%	6.7%	—	—	1.0%

(シス女性)	異性愛者	ゲイ・レズビアン・ 同性愛者	バイセクシュアル・ 両性愛者	アセクシュアル・ 無性愛者	決めたくない・ 決めていない	質問の意味が わからない	無回答
アイデンティティ	83.3%	0.2%	1.6%	1.0%	6.2%	6.8%	1.0%
	異性のみ	同性のみ ほとんど同性	同性異性同じくらい ほとんど異性	どちらもなし	—	—	無回答
恋愛惹かれ	88.9%	0.4%	6.4%	2.7%	—	—	1.6%
性的惹かれ	87.5%	0.5%	6.4%	3.8%	—	—	1.8%
性関係	88.5%	0.5%	1.8%	6.7%	—	—	2.5%
複合指標	81.5%	0.8%	8.7%	7.6%	—	—	1.4%

3 性的指向と人口学的属性：多変量解析

従属変数

- 「**同性愛・両性愛**」 vs 「**異性愛**」 (**アイデンティティ**)
- 「**無性愛**」 vs 「**異性愛**」 (**アイデンティティ**)
- 「**同性愛的・両性愛的**」 vs 「**異性愛的**」 (**複合指標**)
- 「**無性愛的**」 vs 「**異性愛的**」 (**複合指標**)

説明変数

- 年齢、結婚経験、子の有無、本人と親—日本国籍か否か

ロジスティック回帰分析（Firth法、罰則付き最尤推定法）

ロジスティック回帰分析の結果まとめ
 従属変数：「異性愛」ではなく「同性愛・両性愛」と回答)

(アイデンティティ)	同性愛者・両性愛者	シスジェンダー	シス男性	シス女性
		本人・親日本国籍 (－)	本人・親日本国籍 (－)	
		結婚経験あり (－)	結婚経験あり (－)	
			子あり (－)	
		40代後半 (－) 50代前半 (－)	20代後半 (+) 30代後半 (+) 50代後半 (+)	40代以上 (－)
(複合指標)	同性愛的・両性愛的	シスジェンダー	シス男性	シス女性
		男性 (－)		
		本人・親日本国籍 (－)	本人・親日本国籍 (－)	
		結婚経験あり (－)	結婚経験あり (－)	
		子あり (－)		子あり (－)
		40代前半 (－) 40代後半 (－)		40代前半 (－) 40代後半 (－) 50代前半 (－)

性的指向に関する結果（1）

女性、本人や親が日本国籍でないなど、なんらかの社会的マイノリティ属性を持つ人の方が、同性愛・両性愛、無性愛といった回答が多い

- マイノリティ属性であるため、非異性愛的な回答をすることに抵抗が少ないためか
- 「同性愛者・両性愛者」と回答するか否か：
 - シス男性のみで、国籍や結婚経験、子の有無による違いあり
 - シス女性は40代以上であることのみで違いあり（国籍や結婚経験、子の有無による違いなし）

性的指向に関する結果（2）

- **男性のみで、本人や親が日本国籍を有していないと「同性愛的・両性愛的」な回答が多い：**
 - 日本国籍を有する場合、男性が異性愛規範により強く影響される可能性
- **「同性愛的・両性愛的」な回答は、男性では結婚経験があると少なく、女性では子をもっていると少ない**
 - 男性にとっては結婚が、女性にとっては子をもつことが同性愛的・両性愛的感情や行動の抑制につながっている可能性
 - 女性はほとんどが両性愛者

トランスジェンダーの性的指向

- FTM（トランス男性、出生時女性－自認男性） 4 人
 - 「決めたくない・決めていない」が半数（シス全体では 5. 2 %）
 - FTX（出生時女性－自認その他） 16人
 - 「決めたくない・決めていない」が半数
 - MTX（出生時男性－自認その他） 6人
 - 半数が無性愛者選択
 - MTF（トランス女性、出生時男性－自認女性） 6人
 - ほぼすべての性的指向に選択あるが、両性愛者最多 2 人
- 全般に男性を主な性愛の対象とする回答が少ない

データの限界・分析の限界 + 貢献

- 日本全国に一般化できない
- 2018年時点で18-59歳であった大阪市民に一般化できる設計で実施したが、特に若年男性からの回答は少ないといった課題がある
- 少数の性的マイノリティの分析にとどまる
 - 性的マイノリティの中での差異は示せない

★とはいえ、今回の試みによって、このようなデータが蓄積されればどのような分析が可能になるのかを示すことができた

ご清聴ありがとうございました